

東条川疏水ネットワーク博物館構想

基本方向と具体化へ向けた提案

～地域の手で次世代のために水の恵みを活かす～



平成24年3月

東条川疏水ネットワーク博物館研究会事務局

目次

はじめに（東条側疏水ネットワーク博物館構想について）	1
第1章 「東条川疏水」の魅力を見直し、これからについて考えました	2
1-1 東条川疏水を見つめ直しました	2
1-2 地域のみなさんや専門家と共に考えました	4
第2章 地域の資源「東条川疏水」を次世代に引き継ぐために	7
2-1 考え方の3つの柱	8
2-2 実現に向けての取り組み	10
参考	11
1 検討の経過	11
2 この提案をつくるために協力して下さった方々（所属は平成24年3月31日現在・敬称略）	12



はじめに（東条川疏水ネットワーク博物館構想について）

東条川疏水をご存じでしょうか。

加東市、小野市、三木市の農地に農業用水を供給するとともに一部は加東市と小野市の水道用水としても利用され、全国疏水百選にも選定されている疏水です。

大正13年にこの地域を襲った大干ばつを契機に昭和9年に三草山の麓に築造された昭和池、戦後初めてのコンクリートダムとして築造された鴨川ダム、3,000haを超す農地に水を送る水路網、曾根サイフォン、六ヶ井円筒分水など珍しい施設を随所に持っています。

草加野や万勝寺、依藤野などの開拓地は、戦後の満州からの引き上げ者等によって開かれた開拓地ですが、東条川疏水の水により、水田となり、この地域の農業を支えています。

この東条川疏水はどこを流れているのでしょうか。

幹線水路は山沿いを開水路とトンネルで、谷部はサイフォンでつながり、みんなの目にふれることは余りありませんが、絶えず水を送り続けています。支線水路は、小学校や中学校、住宅の側も通り田んぼやため池に水を送っていますが、みんなは気が付きません。

しかし、この水が流れずに止まってしまったらどうなるのでしょうか。途端に稲は弱り、人間も飲み水が不足してきます。ため池の動植物にも影響がでるでしょう。東条川疏水は、このようにこの地域を支える大事な水です。

みんなで、この東条川疏水について学び、地域の財産として活かし、地域の手で次の世代につないでいこうではありませんか。このためには、地域の人たちのネットワークが大切になります。このネットワークを構築するために、東条川疏水ネットワーク博物館構想の基本コンセプトと取組方針を研究会としてまとめてみました。

昨年11月には北播磨地域のマスタープランである北播磨地域ビジョン 2020 が策定されました。ここで示された5つの地域像はまさに東条川疏水が目指す方向とも合致し、東条川疏水が地域の財産として、地域の手で次世代のために活かされることを願っています。

平成24年3月

東条川疏水ネットワーク博物館研究会
事務局長 二位 孝夫



第1章 「東条川疏水」の魅力を再発見し、 これからについて考えました

1-1 東条川疏水を見つめ直しました

●長らく水に苦勞した東播磨地域

東播磨地域は日本でも特に雨の少ない地域で、丘陵地、台地、段丘などの地形から河川の水利利用が難しかったために、日本有数のため池密集地帯として知られています。

かつて、この地域に暮らす人々は自分たちの農業を支えるために井堰や池をつくるなど、水を得るための工夫や努力を積み重ねてきました。しかし、現在確認できる江戸時代以前の記録でも、水争いが絶えない地域であったことが伺えます。

●大切な水を地域に届ける「東条川疏水」

このように長らく水に苦勞した東播磨地域において1928年(昭和3年)に昭和池築造が始まり、1949年(昭和24年)には戦後初めての国営事業として鴨川ダムが着工しました。鴨川ダムが完成した1951年(昭和26年)には、地域に水を届ける幹線水路の建設が始まりました。

●戦後復興の象徴「開拓地」へ水を届ける「東条川疏水」

また、戦後の「緊急開拓事業」による草加野万勝寺地区の開墾地や嬉野地区は台地上にあるために厳しい状況でしたが、1958年(昭和33年)に400haにも及ぶ開拓地に鴨川ダムの水をポンプで汲み上げて送れるようになり生活が安定しました。

●高度な土木技術が集結する「東条川疏水」

東条川疏水には、昭和池や鴨川ダムはもちろん、建設当時の土木技術では不可能とされた「船木池」のアースダム、当時の土木技術の粋が集積された「安政池」、大きな谷を渡る1,087mもの曾根サイフォンや、水を公平に配分する六ヶ井円筒分水など、高度な土木技術が集結しています。そして、今日では播州米のほか、酒米の「山田錦」を産するなど、優良農業地域へと大きく変貌しました。



鴨川ダム



曾根サイフォン

●全国の疏水百選の一つに選ばれた「東条川疏水」

広く国民の関心を集め、農地資源の価値を国民に伝えることにより、日本の美しく豊かな“水・土・里”を育てることを目的に平成18年2月3日国民投票により疏水百選が決定されました。この疏水百選は、①農業及び地域の振興②歴史・伝統・文化③環境・景観④地域コミュニティーの形成を視点に、全国から“琵琶湖疏水”をはじめ110ヶ所が選定されました。

東条川疏水は本県から選ばれた3ヶ所の内の1つです。

●上水としても利用される「東条川疏水」

東条川疏水の受益地域の都市化の進展により、小野市、加東市(当時は社町、滝野町)の水需要が大幅に増大したため、農業用水合理化対策事業により昭和49年度から水利転用され、上水として供給されています。なお、水源として小野市は33%、加東市は27%を占めています。

●土井集落の移転から生まれた「東条川疏水」

鴨川ダムの築造により水没した土井集落は、黒谷本村の北方1,000mに位置し、7戸46人が居住し、水田7ha 畑1ha が耕作されていました。そして、補償により6戸が南に接する黒谷と秋津に移転しました。

●ため池とのネットワークを構築する「東条川疏水」

鴨川ダムから注水された水は安政池、船木池を經由して東条川に放流される外直接ため池に注水されています。これにより、水路を介して水のネットワークが構築され、これが生物を育み、人と人とのつながりを醸成する効果を生み出しています。

●県下随一の田園地帯、山田錦の主産地を支える「東条川疏水」

伊丹・灘地方は江戸時代に清酒が初めて醸造されて以来、灘五郷をはじめとする全国有数の清酒生産地を形成し、全国第1位の生産高を誇っています。東条川疏水の受益地は、伊丹・灘地方の蔵元へ山田錦をはじめとした酒米を提供する主要生産地となっています。それは、この地域が酒米の生産条件である最適の地形、気候、土壌に適しているためです。

1-2 地域のみなさんや専門家と共に考えました

① これまでの取り組み

東条川疏水の魅力を地域の多くの方々に知ってもらい再認識するとともに、また、東条川疏水とその周辺での既存の取り組みとの協力・連携を高めるために、平成23年度には以下のような取り組みを実施しました。

●東条川疏水ネットワーク博物館「研究会」の開催

学識経験者3名、専門家5名、住民代表2名の計10名の委員で構成される「東条川疏水ネットワーク博物館研究会」を計3回開催し、東条川疏水ネットワーク博物館構想について議論を行い、今後の基本方向と具体化に向けての内容を取りまとめました。

施設見学



施設見学



第1回研究会



第3回研究会

●東条川疏水ネットワーク博物館「座談会」の実施

東条川疏水の受益地である小野市及び加東市にて、地域の方々とともに東条川疏水の価値について話し合い、今後について検討する「座談会」を小野市、加東市でそれぞれ2回、また合同座談会を1回の計5回の座談会を実施し、累計146名が参加、様々な意見・提案が出され構想の骨子に反映されました。



小野市座談会



座談会(合同)

●地域の小学校における「疏水めぐり」の実施

地域の中番小学校及び東条東小学校にて、4年生を対象に「疏水めぐり」を実施しました。「疏水めぐり」は事前学習と現地学習を2校で総計7回実施し、累計224名が参加しました。この成果は「学習発表会」「感想文」「壁新聞」としてまとめられ、今後の補助教材として活用される予定です。



事前学習(東条東小)



疏水めぐり(アクア東条)



疏水めぐり(大川瀬ダム)

●地域内外へ魅力を伝える「ウォーク」の実施

東条川疏水の魅力を地域内外の人々へ伝えるため、参加者公募により「加東山田錦の里探訪ウォーク(9/25)」及び「小野ハートフルウォーキング(10/22)」を実施し、計446名が参加しました。



山田錦の里ウォーク



山田錦の里ウォーク

●地域の既存の「イベント」との連携

「産フェスおの(10/22,23)」と連携し東条川疏水の魅力を地域内外の人々へ伝えました。



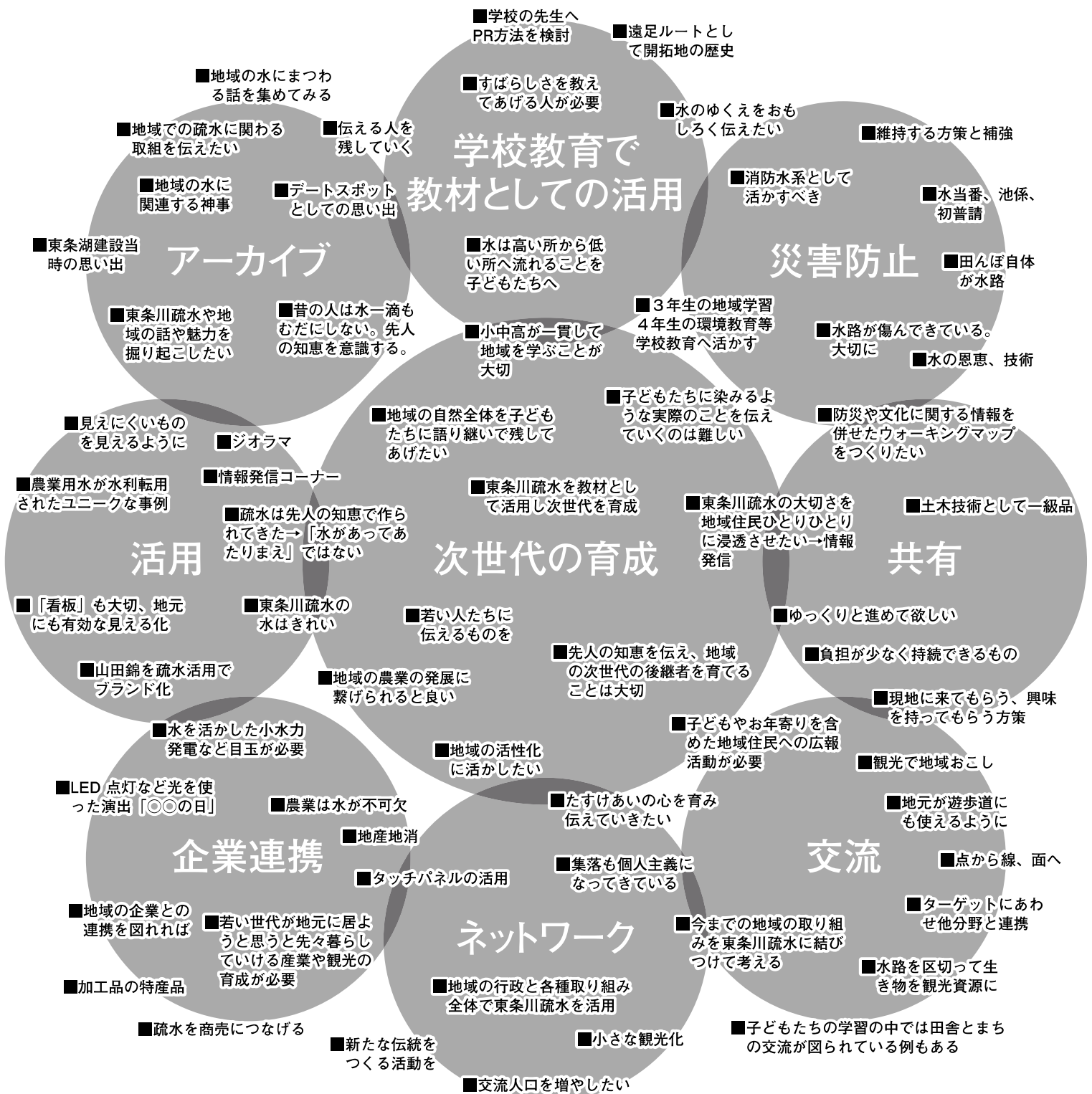
産フェスおの



産フェスおの

②地域座談会での意見等

地域座談会などで出された意見を集約すると次のとおりです。以下の意見等を踏まえ、疏水にまつわる水と人、人と人とのネットワークの力を高めることにより、「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」ことをめざします。



③研究会での意見等

地域座談会での意見を踏まえた研究会で出された意見を集約すると次のとおりです。

以下の研究会での整理を踏まえ、①「東条川疏水」の名前を地域や地域外に定着させる②地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用する③既にある資源や活動を「ほりおこし・つなげ・むすびつける」ことにより取り組みの輪を広げる、を考え方の柱とします。

地域を担っていく次世代を 育てる学習の場として活用する

■今しか残せない次世代のための
社会教育の財産がある

■地域の方々が、自分たちの地域について、
誇りの持てるイベントや学習（学校教育
・社会教育）を行う

■災害予防の視点からも現在の地域
の資産整備をしておく必要がある

■地域の歴史等の語り部を資産、
財産とし記録として今残す

■地域の方々が、東条川疏水を十分に理解
するための仕掛け（疏水めぐり等）を実
施する必要がある

■東条川疏水を「地域の財産、
地域の資源として活用して
いく」

■出来るところから、地域に既に
ある取組みや人材を活かした連
携と相乗効果によって進める

■東条川疏水の名称とともに、
今回の取組が「地域の手で
次世代のために水の恵みを
活かす」ことがサブテーマ
として認知されることが重
要である

■既存のものの把握とそれらをつ
なぐネットワークの構築

東条川疏水 ネットワーク 博物館

■取組みの推進にあっては水のネットワークとともに、
人のネットワーク（地域、縦の時代、職業、行政）づくりが大切

■「疏水」で名称を統一する

「東条川疏水」の名前を
地域や地域外に定着させる

既にある資源や活動を
「ほりおこし・つなげ・むすびつける」
ことにより取り組みの輪を広げる

第2章 地域の資源「東条川疏水」を 次世代に引き継ぐために

2-1 考え方の3つの柱

① 「東条川疏水」の名前を地域や地域外に定着させる

「東条川疏水」は、それぞれの水利施設が段階的に整備され、また、日常生活の中で私たちの目にする施設が「昭和池」、「鴨川ダム」などそれぞれ独立したものとして捉えられており、この地域全体の水利施設全体のネットワークを示す名称が明確に認識される機会がありませんでした。この構想においてこの地域の水利施設全体のネットワークを「東条川疏水」と位置付け、今後は、この「東条川疏水」という名称が核となって地域の人々が行う活動をつなげ・むすびつけるキーワードとして地域や地域外に定着させます。

② 地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用する

特に、地域のことを教材として、地域の持つ「教育力」を最大限に活かし、今後、地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用します。そのために、地域の子供たちが学校などで地域のことを学ぶ際に活用できる教材等を充実させます。また、「学校教育」ばかりでなく「社会教育」の場面において大人も地域を学べる機会を設けます。

③ 既にある資源や活動を「ほりおこし・つなげ・むすびつける」 ことにより取り組みの輪を広げる

ハード面での「東条川疏水」は、現代の私たちにとって決して「新しく作られる施設」ではなく、以前から地域に馴染んだ施設です。この「東条川疏水ネットワーク博物館構想」では、その「既に地域にある、地域にとって大切な施設」を改めてみつめ、魅力をほりおこし、それぞれの水利施設をつなげ・むすびつけて考える「東条川疏水」のネットワークという視点で、再発見し、共有し、活かします。

また、ソフト面での活動や取り組みについても、既に地域にある活動や取り組みを「ほりおこし・つなげ・むすびつける」連携によって「東条川疏水」を地域の人々にとって楽しめる場、誇りを持てる場として取り組みの輪を広げます。

【ねらい】

地域の手で東条川疏水を次世代に引き継ぐ

【考え方の3つの柱】

アーカイブ

共有

活用

「東条川疏水」の名前を地域や地域外に定着させる

地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用する

既にある資源や活動を「ほりおこし・つなげ・むすびつける」ことにより取り組みの輪を広げる

災害防止

企業連携

交流

各種取り組みへの普及波及

各種取り組みへの普及波及

【背景】

長らく水に苦勞した東播磨地域

大切な水を地域に届ける疏水

戦後復興の象徴「開拓地」

高度な土木技術が凝縮する疏水

全国の疏水百選の一つに選ばれた疏水

上水としても利用される疏水

土井集落の移転から生まれた疏水

ため池とのネットワークを構築

県下随一の田園地帯、山田錦の産地を支える疏水

図：東条川疏水ネットワーク博物館構想の構成図

2-2 実現に向けての取り組み

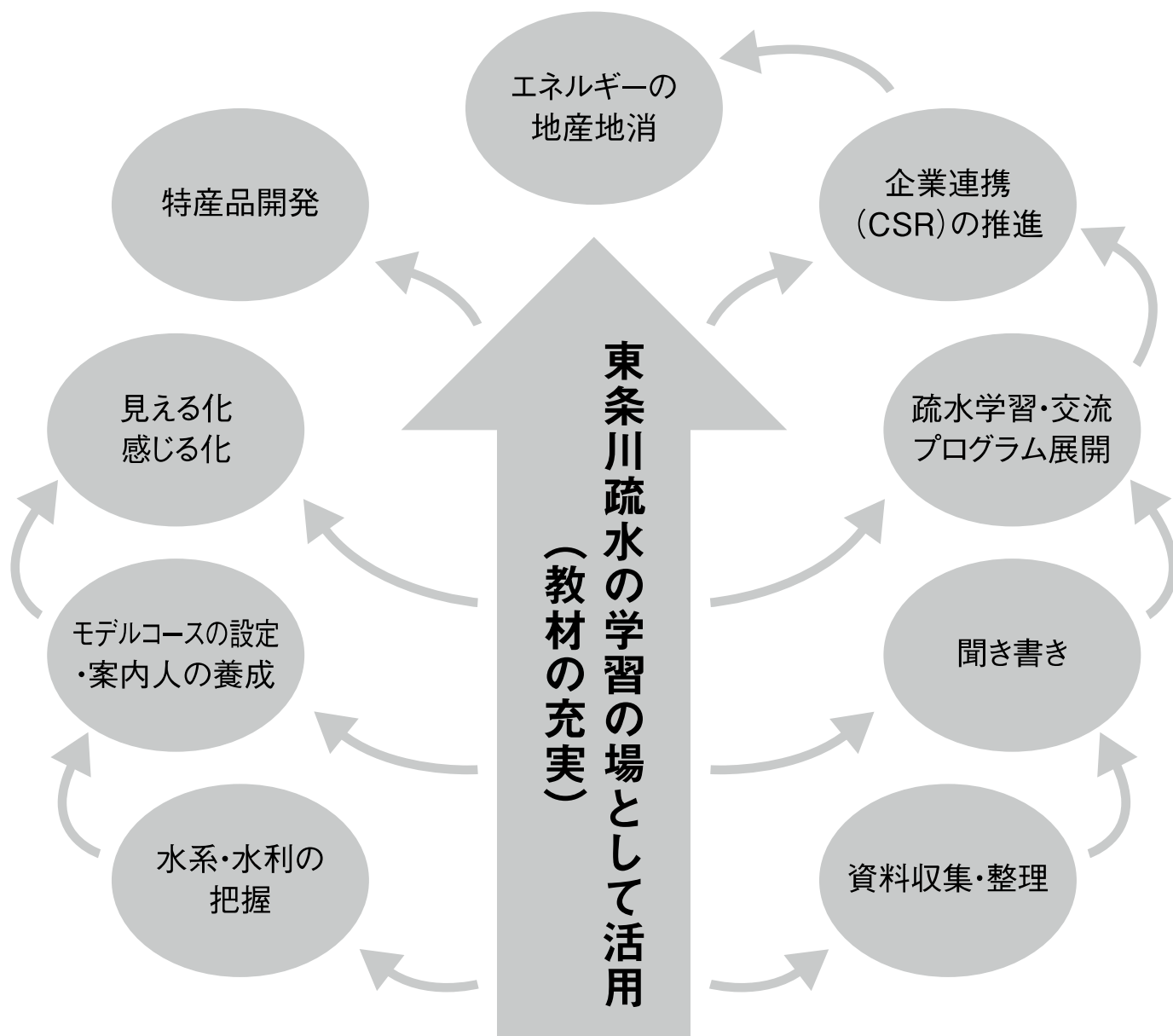
「考え方の3つの柱」を軸に、以下の取り組み方針に基づいてアクションプランを実施します。

① 東条川疏水を核として地域の人々が学習の場として活用

「東条川疏水」を地域の学校教育教材(副読本、DVD等)、社会教育教材として活用をすることにより理解の促進を進めます。

② 地域の他の取り組みとの相乗効果による普及・波及

東条川疏水の教材としての活用を中心に取り組みを進める中で、様々な地域資源や活動、取り組みを「ほりおこし・つなげ・むすびつける」輪を広げ、相乗効果による普及・波及を目指します。



図：取り組み展開イメージ図

1 検討の経過

●東条川疏水ネットワーク博物館研究会

	日時	場所	内容
第1回研究会	平成23年6月8日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 東条川疏水ネットワーク博物館構想の概要 座談会の開催と意見集約の方法 今後のスケジュール
第2回研究会	平成23年12月5日	兵庫県社総合庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察 東条川疏水ネットワーク博物館構想の推進の経過について 東条川疏水ネットワーク博物館構想の骨子素案について 今後のスケジュール
第3回研究会	平成24年3月5日	JA みのり本店	<ul style="list-style-type: none"> 東条川疏水ネットワーク博物館構想について 今後の展開について

●東条川疏水ネットワーク博物館座談会

	日時	場所	内容
第1回 小野市座談会	平成23年8月30日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察 趣旨説明 ワークショップ 「地域の魅力について」
第1回 加東市座談会	平成23年9月8日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察 趣旨説明 ワークショップ 「地域の魅力について」
第2回 小野市座談会	平成23年9月27日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none"> 前回のふりかえり ワークショップ 「想いをカタチにするために」
第2回 加東市座談会	平成23年10月7日	加東市東条庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 前回のふりかえり ワークショップ 「想いをカタチにするために」
第1回 合同座談会	平成24年1月26日	小野市コミュニティセンター下東条	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯およびふりかえり 東条川疏水ネットワーク博物館構想の骨子案について 意見交換「今後の具体的な行動に向けて」

2 この提案をつくるために協力して下さった方々 (平成24年3月31日現在・敬称略・所属は会議時)

●東条川疏水ネットワーク博物館研究会

内田一徳(会長・神戸大学農学部長)/三宅康成(兵庫県立大学環境人間学部准教授)/南埜 猛(兵庫教育大学大学院准教授)/金山友香(関西ウォーカー編集部)/増田和郎(神戸新聞北播総局長)/後藤達夫(JTB神戸支店営業課長・加古川担当)/小池 敏(兵庫県東播土地改良区理事長)/岸本清明(元東条西小学校教諭)/石井正敏(元加東市山国区長)

●東条川疏水ネットワーク博物館座談会 (____は合同座談会参加者を示す)

○アドバイザー 三宅康成(兵庫県立大学 准教授)/南埜 猛(兵庫教育大学大学院准教授)

○小野市

松井英樹(下東条地区区長会代表・中谷町区長)/藤原輝之(下東条地区区長会副代表・菅田町区長)/井上守一(※・脇本町区長)/藤井利昭(下東条地区まちづくり活性化委員会副会長・小田下町区長)/小林 了(※・万勝寺町区長)/岸本英之(※・池田町区長)/井上正俊(※・曾根町区長)/岩城榮造(※・小田上町区長)/増山 裕(※・船木町区長)/小西克己(下東条地区まちづくり活性化委員会会長・福住町区長)/進藤一行(※・中番町区長)/長谷川廣行(※・住吉町区長)/門脇覚巳(※・久保木町区長)/鈴木保二(※・高山町区長)

※各区長は、下東条地区まちづくり活性化委員を兼務

○加東市

尾崎善則(東条地域まちづくり協議会・黒谷)/真海陽逸(東条地域まちづくり協議会・栄枝)/平野隆司(東条地域まちづくり協議会・持鹿谷)/藤原進(東条地域まちづくり協議会・松沢)/宮脇昭夫(東条地域まちづくり協議会・松沢)/松山はつ子(東条地域まちづくり協議会・黒谷(土井集落))/田中孝治(東条地域まちづくり協議会・古家(土井集落))/田中三郎(米田ふれあい協議会・久米(旧嬉野開拓組合))/長谷川鶴吉(米田ふれあい協議会・久米(久米南山水利組合))/藤本春雄(米田ふれあい協議会・久米)/伊藤 隆(米田ふれあい協議会・上久米)/常深貞躬(東条湖ランド赤坂社長)/埜尻善之(東条湖観光)/友安喜計(道の駅「とうじょう」)/石原 豊(加東市観光協会)/今田耕一(加東市観光ボランティア)/森下大輔(加東市教育委員会)

○その他団体

依藤順子(小野市女性団体連絡協議会会長・味彩会)/清水谷善誠(播州清水寺)/今村明浩(プランディレクター)

●事務局

市橋茂樹(小野市地域振興部次長兼産業課長)/久後源一(小野市地域振興部観光課長)/岸本好晃(小野市教育委員会体育保健課長)/西田 猛(小野市教育委員会いきいき社会創造課主幹)/岸本敏弘(加東市地域整備部長)/丸岡 薫(加東市農村整備課長)/松本和久(加東市農林課長)/阿江孝仁(加東市地域振興課長)/芹生修一(加東市企画政策課長)/村上秀昭(加東市教育委員会部長)/山口嘉彦(JAみのり営農企画課長)/藤原浩一(JA兵庫みらい営農振興課長)/服部善典(兵庫県東播土地改良区事務局長)/小林忠生(兵庫県東播土地改良区管理部長)/二位孝夫(兵庫県加古川流域土地改良事務所長)/泉谷裕司(加東農林振興事務所長)/北田 豪(加西農業改良普及センター所長)/山田貴一(北播磨県民局まちむら交流参事)/畑中直樹(㈱地域計画建築研究所(アルパック)取締役計画部長(環境領域)/中川貴美子、森野真子(㈱地域計画建築研究所(アルパック)/山際丈、森田直子、伊藤清明(兵庫県加古川流域土地改良事務所)